

文章と言葉と

芥川龍之介

青空文庫

文章

僕に「文章に凝^こりすぎる。さう凝^こるな」といふ友だちがある。僕は別段必要以上に文章に凝つた覚えはない。文章は何よりもはつきり書きたい。頭の中にあるものをはつきり文章に現したい。僕は只^{ただ}それだけを心がけてゐる。それだけでもペンを持つて見ると、滅^{めつた}多にすらすら行つたことはない。必ずごたごたした文章を書いてゐる。僕の文章上の苦心といふのは（もし苦心といひ得るとすれば）そこをはつきりさせるだけである。他人の文章に対する注文も僕自身に対するのと同じことである。はつきりしない文

章にはどうしても感心することは出来ない。少くとも好きになることは出来ない。つまり僕は文章上のアポロ主義を奉ずるものである。

僕は誰に何といはれても、方解石のやうにはつきりした、曖昧を許さぬ文章を書きたい。

言葉

五十年前の日本人は「神」といふ言葉を聞いた時、大抵髪をみづらに結び、首のまはりに勾玉をかけた男女の姿を感じたものである。しかし今日こんにちの日本人は——少くとも今日の青年は大

抵^い長ながと顛^{あごひげ}髯をのぼした西洋人を感じてゐるらしい。言葉は同じ「神」である。が、心に浮かぶ姿はこの位すでに変^{へん}遷^{せん}してゐる。

なほ見たし花に明^あけ行^ゆく神の顔（葛^{かつらぎ}城^{さん}山）

僕^じはいつか小^こ宮^{みや}さんとかういふ芭^ば蕉^{せを}の句を論じあつた。子^し規^き居^こ士の考^じへる所によれば、この句は諧^{かい}謔^{ぎやく}を弄^{ろう}したものである。

僕もその説に異存はない。しかし小宮さんはどうしても莊嚴な句だと主張してゐた。画力は五百年、書力は八百年に尽きるさうである。文章の力の尽きるのは何百年位かかるものであらう？

青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚 芥川龍之介全集第四卷」筑摩書房

1971（昭和46）年6月5日初版第1刷発行

1979（昭和54）年4月10日初版第11刷発行

入力：土屋隆

校正：松永正敏

2007年6月26日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランティアの皆さんです。

文章と言葉と

芥川龍之介

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>